

震災・原発事故の中、 地域と共に奮闘する企業

いわき地区で奮闘する会員の姿をお知らせします。

震災、津波、原発事故を乗り越え、営業再開をした高木屋旅館

高木屋旅館 高木重行さん
(いわき地区)

いわき市久之浜町で海とワインの宿、高木屋旅館を経営している地区会員の高木重行さん。震災前は地元、久之浜港で水揚げされた活きの良い旬な海の幸と、地元農家から厳選された新鮮野菜(無農薬)、そしてこだわりのワインなど、宿泊客にはいつも



▲高木屋旅館外観

満足をいただいていたいました。それが3月11日の未曾有の東日本大震災と福島第一原発の事故により避難を余儀なくされ、ほぼ2ヵ月避難生活をして、5月に久之浜に戻ってきました。

高木屋旅館は海岸から100m位陸に入っており、久之浜港あたりの地域からは4m位高い土地に立っており、津波は2m位の高さと思われず。地震直後は、津波の予測はできず旅館のワインセラの被害を確認していましたが、津波の情報がでて家族で大至急避難をしました。

その後、近所で火災が発生、翌日あきらめ半分です。戻ったところ、幸いにも旅館とその向かいの自宅は、奇跡的に火災から逃れ残っていました。ただし2棟あった旅館は津波で大きな被害を受けてました。そこを片付ける間もなく、



▲旅館裏手に回ると未だ復旧工事途上

原発事故で長期避難を余儀なくされ、親戚の家に避難していました。

高木さんの家族は、母、高木さんご夫妻、長男、長女の5人で、長女以外の家族4名と、数名のお手伝いさんで旅館を営業していました。避難していた頃は、長男に旅館の継続は出来ないとの考えを伝え、職探しの提案もしました。

5月連休後いわき市へ戻ってきましたが、改めて現実と直面して被害の大きさと旅館の惨状に、暫くは夢か現実か判断出来ず、呆然自失の日々が続きました。室内は瓦礫などで埋め尽くされ、手のつけられない状態でした。そんな時、ボランティアの応援をお願いしたところ5月

末ごろになって経団連1%クラブから42名のボランティアに来ていただき、2日間で大きな瓦礫などほとんど片付けました。そして、大勢のボランティアの方々より営業再開を強く後押しされ、復興に向けて進む決意が固まりました。

2棟あった建物のうち、被害の大きかった海側の建物を取り壊し、1棟で営業再開を決意。震災前は海の幸とワインの旅館で多くの宿泊客で賑わっていました。原発事故により久之浜に揚がっていた新鮮な魚介類は、いつになつたら再開出来るかの目途もなく、営業方針を大きく変えざるを得なくなつたので、ビジネス旅館としてシングルルーム15室(5畳)、8畳間を5室に改装する事にしました。

平成21年に改装をしたばかりで借入れもあり、営業再開資金は、県の災害復興資金を利用することにして、二重借入れになるのは繰り越すことで避けられ、工務店さんの協力もあり資金の目途が立ちました。幸いなことにワインセラに大きな被害はなく、魚介類は青森県や北海道から仕入れる事で解決できました。ここまで来るとあとはオープンに向けて旅館の改装です。工務店さんや家族の力を合わせて津波の被害や原発事故に

よる放射線の心配をしながら、昼夜を問わず無我夢中で改修した結果、9月4日仮オープンする事ができました。当面的には、原発復旧関係者の利用がメインになるそうです。

宿泊料金はAタイプ¥6,500円、Bタイプ¥6,000円、Cタイプ¥5,500円の3タイプで、希望により料理もグレードアップも可能です。

今も津波の片付けや近所の手伝いと忙がしい毎日ですが、ワインも多が残っているので、来年は旅館食堂をイタリアンレストランにして、お昼も稼働させる予定だそうです。

これからは、国、県、市の支援を受けて久之浜町の復興に全力で進みます。
(レポート/駒造園(株) 駒木根博行)



▲取材風景